

vol.38

2019年3月

Link つながる
 Live 生きる
 Learn 学ぶ
 Labour 労働
 Liberty 自由

エル・コンパス



宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター



巻頭エッセイ「大坂なおみ選手の二重国籍問題」	1
特集「女性を議会へ！」	2
講座案内（4月～7月）	4
情報図書	7
相談のご案内など	8

大坂なおみ選手の二重国籍問題

全豪オープンのシングルスで優勝を遂げた大坂なおみ選手は、女子テニスの最新世界ランキング 1 位になった。「アジア初・日本人初の快挙」とメディアは騒ぐが、大坂なおみ選手は日本人の母と、ハイチ系アメリカ人の父との間に生まれた「ダブル」（いわゆる「ハーフ」）で日米の二重国籍を持っている。

大阪で生まれ、3歳で米国へ移住し、今もフロリダ在住で母語も英語である。

アメリカのテニスアカデミーで強くなった大坂選手が、日米の二重国籍を持ちながら、いまだに日本登録しているのを疑問に思っていたが、その理由は大坂選手がまだ無名の頃に遡る。

競技テニスはお金がかかり、物心両面の支援が必須である。大坂選手の両親は米国テニス協会に支援を申し込んだが、大して取り合ってもらえなかった、のに

反してヨネックス社の米山会長（当時社長）は用具提供の支援をしたり、今もコーチ陣の一人である吉川真司氏はまだ無名ではあった15歳のなおみ選手の



才能を見出して以来地道な支援をし続けた結果、両親は日本の恩義を尊重して、今でも日本で登録をし続けているという。大坂なおみ自身も「母が日本の文化や料理を伝え続けたので、私のメンタリティは日本人に近い」と答えている。

アメリカと異なって、日本の法律では二重国籍を認めておらず、大坂選手は、22歳の誕生日（2019年10月16日）までに、日本かアメリカのどちらかの国籍を選択しなければならない。

22歳以降の国籍の選択は義務だが罰則はないので、二重国籍のままでもいることも可能であるが、スーパースターである大坂選手には選択をしないという選択肢はないであろう。どちらの国籍を選択しても、本人が決めることであり、本人の持って生まれた才能と努力に魅了されているファンは大坂なおみ選手を応援し続けることだろう。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長
 田上時子

特集

女性を議会へ！

「女性ゼロ」議会ということばを聞いたことがありますか？

全国の 1788 地方議会のうち、女性議員が 1 人もいない議会が 339 議会、1 人しかいない議会が 460 議会あります。女性議員が 1 人以下の議会が全体の 45% を占めていることとなります（2019 年 2 月 17 日 朝日新聞朝刊より）。

2018 年度版世界経済フォーラム（WEF）による男女格差の度合いを示す「グローバル・ジェンダーギャップ指数」では、調査対象となった 149 カ国のうち、日本は 110 位でした。この指数は経済、教育、健康、政治の 4 つの分野のデータから作成されますが、政治分野における順位は 125 位でした。

今回、政治にもっと女性の声を反映させようと、23 年前から「女性を議会へ バックアップスクール」を開校している NPO フィフティ・ネット代表の森屋裕子さんにお話をお聞きしました。

📌 「女性を議会へ バックアップスクール」とは

そのものずばり、女性を議会へ送り出すことを目的として開校しています。「ジェンダーに敏感な視点をもった女性を」ということがポイントです。募集するのは、議員を志す人、現職議員、仲間を議会に送り出したい人、政治に関心がある人など。男性でもジェンダー視点があれば参加できます。第 1 期は 1996 年、今から 23 年前のことです。カリキュラムは、政治や政策、社会問題などに詳しい専門家や研究者などの講義や現職議員からの選挙ノウハウや経験談などです。また実際に街頭演説を体験することもあります。2018 年のスクールでは関西を中心に全国から 35 名の応援議員が名乗りを上げ、講師として参加してくれたり、選挙でのいざというときの強い味方になってくれたりしています。



「女性を議会へバックアップスクール」のロゴマーク

📌 スクールを始めたきっかけは、「女性ゼロ」議会の傍聴したこと

1990 年代に政策コンサルタントの仕事をしていたのですが、滋賀県のある市で「女性ゼロ」議会の傍聴した時の衝撃が忘れられません。その議会では議員はすべて男性、質問に答える市の職員も男性、そして傍聴席も男性だけ…。かなりショックでした。「これでは女性の声が政治に届くはずがない」と。

同時期に北京で開催された世界女性会議（1995 年）に参加。そこで出会った世界の女性議員たちのパワフルな姿に、「あー、日本もこうならないといけないな」と思いました。でも、選挙のノウハウも知らず、仲間もない一般市民の女性が議員になるということは大変なことです。そこで議員になるために勉強するスクールを自分たちで作り、ここで学んだ人たちが仲間となって女性を議会に送り出すことにしたのです。北京の世界女性会議に参加したメンバー 3 人で始めました。

📌 議員になった女性たち

1996 年の第 1 期のスクールは、たいへんな反響でした。200 人くらいの方から問い合わせがあり、結果的に受講者を 70 人くらいに絞りました。新聞に掲載された影響もありましたが、当時は女性運動が盛り上がった時期で、潜在的に政治に参加したいと思っている女性が多かったと思います。1996 年、1997 年、1998 年、3 期のスクールを経て 1999 年の統一地方選挙を迎えました。「女性と政治キャンペーン」を行い、のぼりや横



女性と政治キャンペーン

断幕を掲げてスクール出身の立候補者たちを応援しました。それ以降の統一地方選でも同様にスクールの開校とキャンペーンの実施で女性たちを議会に送り出してきました。

開校から 23 年、13 回を数えたスクールからは、のべ 100 人余りの議員が誕生しました。実績を重ねて市議会議長や市長になった人もいます。そして先に議員になった人は「応援議員」として、スクールの講師やアドバイザーになって、後輩を励ましてくれています。



森屋 裕子 (もりや ゆうこ) さん (NPO フィフティ・ネット 代表)

森屋さんには当センター主催の男女共同参画スタディーズの講師のおひとりとして、7月6日にお話をさせていただきます。

📌 今年の統一地方選挙に向けて、昨年も開校しました！

受講者のみなさんは生き生きとしていて、多様な立場からさまざまな主張がありました。シングルマザーとしての経験を政策に活かしたい、在日外国人の権利を確立したい、男中心の地域社会を変えたい、原発ゼロをめざしたい、防災士として培った力を活かしたい…などなど。

2018年の第13期バックアップスクール (4回講座)

第1回目は同志社大学教授の岡野八代さんによる公開講座「女が変える政治の風景～議会におけるジェンダー平等と民主主義～」
2回目からは女性の格差・貧困、女性と防災、ジェンダー教育の必要性などについて、それぞれの分野の専門家による講義や先輩議員による選挙ノウハウ、街頭演説の体験など。
※4回目は合宿

📌 ※ 「政治分野における男女共同参画推進法」の成立は女性議員が増えることの追い風に！

これは政党などが「男女の候補者ができる限り均等となることを目指す」もので、あくまで努力義務にとどまり、罰則規定はありません。でも各政党は女性候補擁立の取り組みを問われることになるので、今年の選挙では立候補する女性が増えることを期待しています。

女性議員が議場に子どもを連れて行くことについての賛否が問われたり、議会でのセクシュアルハラスメント発言、財務省セクハラ事件、医学部入試女性差別事件など、最近女性をめぐる事件が頻繁に起こりました。「何とかしたい」と思っている女性たちは多いと思います。

※政治分野における男女共同参画推進法：平成30年5月23日に公布・施行。この法律は、衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、国・地方公共団体の責務や、政党等が所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定める等、自主的に取り組むよう努めることなどを定めています。

📌 世代も地域も越えて女性たちが繋がっていくために

三浦まりさん(上智大学教授)が若手の女性政治リーダーを養成する「パリテ・アカデミー」という一般社団法人を設立され、^{*}「パリテ・カフェ」という活動が全国に広がっているようです。

「パリテ・カフェ」の動きなどを見てみると、SNSによる情報発信の効果が大きく、政治に関心を持つ若い女性たちの活動をとても頼もしく思います。私たちの世代はSNSを使うことに苦手意識があって、なかなかうまく情報発信ができていない部分がありますが、今までの経験やノウハウを次の世代に伝えていくことは私たちの責任だと思っています。世代も地域も越えて女性たちが繋がり、情報交換したり励ましあったりして「女性を議会へ」の動きが全国的な大きなうねりになってほしいと思っています。

※パリテ・カフェ：パリテというのは男女平等、男女同数という数字。パリテを目指すカフェという意味で、パリテ・カフェと名付けました。第1回目は神田で開き、60人位が集まり、政治について、日頃のもやもやを語ってもらいました。
(『しゃべり尽くそう！私たちの新フェミニズム』/望月衣塑子・三浦まり 他/梨の木舎(2018/9) より)

講座案内

4月～7月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

男女共同参画基礎講座

5月7日（火）から受付

6月8日～7月20日（各土曜日） 全4回 10:00～12:00

男女共同参画スタディーズ 2019

～歩みを止めず、ジェンダー平等をめざして～

世界経済フォーラム（WEF）が発表した2018年度版各国の男女格差（ジェンダーギャップ）を示す男女平等ランキングで日本は149か国中110位。特に「政治分野」では125位でした。私たちの生活の中で、意思決定の場にマイノリティ（少数派）の声を届けるにはどうしたらいいのでしょうか。ジェンダーの視点で一緒に考えてみましょう。

6月8日	「ジェンダーと子どもの人権とは」 田上時子さん（NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長）
6月22日	「自分らしく生きる」 ～LGBT ってなんだろう？～ 藤原直さん（LGBT ライフビジョンコーチ）
7月6日	「政治を身近に」 ～『女性を議会へ！』の活動から～ 森屋裕子さん（NPO フィフティ・ネット 代表）
7月20日	「ジェンダーと教育」 ～これからの男女共同参画に必要なこと～ 木村涼子さん（大阪大学大学院 人間科学研究科 教授）

- 対象：テーマに関心のある方 40人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

ジェンダーギャップ指数について

ジェンダー・ギャップ指数は各国における男女格差を測り、経済、教育、健康、政治の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を意味しています。2018年度の日本の総合スコアは0.662、順位は149か国中110位でした。各分野におけるスコアと順位は次のとおりです。

- 経済分野：0.595（117位）
- 教育分野：0.994（65位）
- 健康分野：0.979（41位）
- 政治分野：0.081（125位）

（内閣府発行 「共同参画」2019年1月号 より）

ジェンダー・ギャップ指数（2018）
上位国及び主な国の順位

順位	国名	値
1	アイスランド	0.858
2	ノルウェー	0.835
3	スウェーデン	0.822
4	フィンランド	0.821
5	ニカラグア	0.809
6	ルワンダ	0.804
7	ニュージーランド	0.801
8	フィリピン	0.799
9	アイルランド	0.796
10	ナミビア	0.789
12	フランス	0.779
14	ドイツ	0.776
15	英国	0.774
16	カナダ	0.771
51	アメリカ	0.720
70	イタリア	0.706
75	ロシア	0.701
103	中国	0.673
110	日本	0.662
115	韓国	0.657

男女共同参画週間（6月23日～29日）

毎年6月23日から29日までの1週間は「男女共同参画週間」です。男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、政府や地方公共団体だけでなく、一人ひとりの取組が必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか。

講座案内

4月~7月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

親子育ちセミナー

4月3日(水)から受付

5月18日(土曜日) 13:30~15:30

新1・2年生のための CAPワークショップ

CAPとは、子どもがいじめや虐待などの暴力から自分を守るためのプログラムです。ロールプレイやワークショップを通して、すべての子どもたちが持つ生きる権利(安心・自信・自由)を学びます。

●講師：NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西スタッフ

●対象

こどもワークショップ：小学校新1・2年生 20人(子どもが参加される場合は、保護者の参加が必要)

おとなワークショップ：おとな 30人(保護者・子どもに関わる大人の方等)

●保育：10人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順

親子育ちセミナー

4月3日(水)から受付

5月29日~6月26日(水曜日)全5回 10:00~12:00

スター・ペアレンティング講座 ~たたくず 甘やかさず 子育てする方法~

自分自身を大切にしながら、そして楽しみながら子育てする方法を学んでみませんか。「怒ってイライラすることが多くなってきた」「ほかの子どもと比べてしまう」など、子育てはうまくいかないことの連続です。ワークを通して新しい視点で子育てについて考えてみます。

●講師：竹下郁代さん・奥平恭子さん
(NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ)

●対象：子育て中の方、子どもに関わる大人 30人

●保育：15人(1歳~就学前まで) 要予約
締切り：5月20日(月) 17時

5月29日	概論・スター・ペアレンティングとは？ 問題を避ける
6月5日	良い行動を見つける
6月12日	感情を認める
6月19日	限度を設ける
6月26日	新しいスキルを教える・まとめ

エンパワメント講座

6月3日(月)から受付

7月4日~7月25日(木曜日) 全4回 10:00~12:00

セルフケア講座

セルフケア(self care)とは自分自身で自分の世話をすること・面倒をみることをいいます。心の健康づくりにおいて、ストレスとうまくつき合い、自分自身を大切にするためにできる対処法を身につけましょう！

7月4日	ストレスについて知る
7月11日	自分のストレスに気づく
7月18日	セルフケア方法(対処法)を考える
7月25日	自分にあったセルフケア方法を見つける

●講師：井山里美さん(NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 副理事長)

●対象：テーマに関心のある女性 20人(原則として全回参加できる方優先)

●保育：10人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順

講座案内

4月～7月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

サポート・グループ

6月3日(月)から受付

7月5日～8月2日(金曜日) 全5回 10:00～12:00

夫との関係を考える ～尊重し合える関係をめざして～

私の望む、夫婦の関係とは？

私らしく生きるために、ありのままの気持ちを話せる場 サポート・グループ で話し合ってみませんか。

- ファシリテーター：宮本由起代さん(NPO 法人 心のサポート・ステーション 代表理事/カウンセラー)
- 対象：夫との関係を考えたい女性 12人 (原則として全回参加できる方)
- 保育：10人(1歳～就学前まで) 要予約・先着順

ほっとサロン

7月3日(水)から受付

7月18日(木曜日) 13:30～15:30

(9/19、11/21、1/16にも開催予定)

親子で楽しむキッズルーム

親子遊びや絵本の読み聞かせ、簡単な工作など、楽しいこといろいろ。プレイルームでお子さんを遊ばせながら、気になることを話してみましょ。

フリートークのテーマは、「みんなで話してみよう!『いやいや・ぐずぐず』の時」です。

- 進行：NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ
- 対象：乳幼児とその保護者 10組

パープルリボンカフェ 皆でおしゃべりしながら、パープルリボンを作りませんか。

4/22	6/24	8/26	10/28
------	------	------	-------

場所：宝塚市立男女共同参画センター エルズルーム

持ち物：裁縫道具(針・糸など)

申込み：不要 ※一時保育はありません。お子さん連れの参加もOKです。

いずれも月曜日 10:00～12:00

パープルリボンは、女性に対する暴力をなくす運動のシンボルです。

女性の約4人に1人は、配偶者から暴力の被害を受けたことがあり、約7人に1人は、何度も暴力を受けています。

講座報告

とし
年齢を撮る ～イメージとギャップを越えて～2019年
2月9日・16日

写真家の糸川祥子さんは会社員として働きながら40代で写真表現を学び、現在は写真作品の製作や「セルフフォトセラピー」の講座をされています。60代となった糸川さんが被写体として選んだのは60歳以上の女性たち。タイトルを「昭和ガールズ」とし、それぞれに「なりたい格好」に変身した写真と、その人らしさがわかるような日常の姿の写真を撮ること。個展では写真と共に人柄などを垣間見ることのできる文章が展示されました。

センターでは1月15日～2月16日まで「昭和ガールズ」のミニ写真展を開くとともに、2回の講座を開催。1回目は糸川さんのお話、2回目は3人の「昭和ガールズ」のモデルになった方をお迎えして撮影のエピソードなどを語っていただきました。参加者の中には「昭和ガールズ」のモデルをされた方や、糸川さんが写真表現を学びフェミニズムとの出会いの場でもあった「ウーマンズ・スクール」の仲間の方々も多く、熱気ある講座となりました。



情報図書

情報・図書コーナーから女性と政治に関連する図書を選んでみました。

●しゃべり尽くそう！私たちの新フェミニズム 望月衣塑子／梨の木舎（2018/9）



東京新聞社会部記者の望月衣塑子さんと各分野で活躍中の4人の女性たちとの対談集。その4人とは、本名を出し素顔を出して性暴力を訴えた伊藤詩織さん、上智大学政治学教授の三浦まりさん、授業で「慰安婦」問題を教え続ける中学校教師の平井美津子さん、シンクタンク「新外交イニシアティブ（ND）」代表で弁護士の猿田佐世さんです。さすが望月さん、私たちが知りたいことを単刀直入にズバッと聞き、答える側もごまかすことなく真摯に答えていきます。そこから見えてくるのは、メディアと権力の関係、政治と教育、私たちが知らない外交の現場で起こっていることなどで、物事の本質を見極めることの大切さを痛感します。そして、それぞれの対談相手の人が取り組む課題について掘り下げていくと、フェミニズムに行きつきます。彼女たちが立ちはだかる障害に果敢に挑戦し、信念をもって声をあげ行動し続ける姿には勇気をもらえます。

●学校が教えないほんとうの政治の話 斎藤美奈子／筑摩書房（2016/7）



「政治の本は堅苦しくて難しい」というのが一般的ですが、この本は学生や若者を意識してか、時々「ため口」を交えながらテンポよく書かれています。最初に「若者の投票率が低い理由、それは『ひいきのチーム』がないから」と始まります。選挙とは「ひいきのチーム」つまり「ひいきの候補者」に1票を投じる行為であるけれど、それがわからないから選挙に関心がもてない、ということプロ野球の応援やAKB48の総選挙を例にあげて語られます。「ひいきの候補者」を見つけることは政治的ポジションを決めることで、この本では「二つの選択肢」を示して、自分がどちらなのかを考えるようになっています。「体制派と反体制派」「資本家と労働者」「右翼と左翼」など…。政治に中立はあり得ない、政治参加のスタートは「こんちくしょう」という私憤や義憤であると言い切る著者の語り口は痛快です。

●北欧に学ぶ小さなフェミニスト サッサ・ブーレグレン／岩崎書店（2018/5）



スウェーデンの絵本。冒頭「世界の権力者たち…」とあり、G8ジェノバサミットでの8人の首脳たちの写真が現れます。それを見てこの絵本の主人公であるエッパが「何なの、それ？…似たようなスーツ姿のおじさんが8人…どうして女の人がひとりもないのよ？女の人はいえらくなれないの？…」とつぶやくところから物語が始まります。現実はどうなっているのか、本当はどうあるべきなのかと疑問をいだき、フェミニズムを学んでいくというストーリーになっています。フェミニズムとは何か、その起源、理念、著名人とその著書、現在の世界でのできごとと問題点など、子どもにもわかるように、コンパクトにわかりやすく書かれています。

情報・図書コーナー

女性問題の解決や男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信しています。宝塚市外の方も借りられます。

図書貸出は、[お一人5冊・2週間]です。

図書の貸し出しやビデオ・DVDの視聴には「図書利用者カード」が必要です。初めて情報・図書コーナーをご利用される方は、名前と住所が確認できるものをお持ちください。すぐにカードを発行します。

女性のための相談室

予約電話番号：0797-86-4006

2019年4月から電話相談・面接相談の日時が変わります。土曜日の電話相談が始まります。

電話相談	毎週 月・火・木・金曜日 第2・3・4 土曜日 10:00～12:00/13:00～16:00 直通電話：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 10:00～12:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分
法律相談	第1土曜日(原則) 14:00～17:00 < 市民対象 > ※要予約・相談時間は 1人 45分 原則1人1回限り
起業相談	第1・3水曜日 10:00～12:00 ※要予約・相談時間は 1人 60分
チャレンジ相談	第1水曜日 11:00～13:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分

※電話相談以外はすべて保育あり(要予約) 年末年始及び祝日の全相談業務はありません。

セクシュアルマイノリティ電話相談

専用電話番号：0797-71-2136

毎週 水曜日 15:00～18:00 (問い合わせ：宝塚市役所 人権男女共同参画課)

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、さまざまな相談に応じます。本人、家族、友人、教員など
どなたでも相談できます。

前号 vol.37 の記事「男女共同参画の視点で考える防災とは?!」で、2ページに掲載した宝塚市での災害時要援護者の定義について誤りがありました。正しくは以下の通りです。お詫びと共に訂正いたします。

1. 身体障がい者手帳1級または2級を所持する方
2. 療育手帳を所持する方
3. 精神障がい者保健福祉手帳1級を所持する方
4. 介護保険制度による要介護状態区分が要介護3、要介護4、要介護5と認定された方
5. 人工透析等、生命維持に必要な医療ケアが必要な方 (ただし、1～5の在宅生活の方に限る)

宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

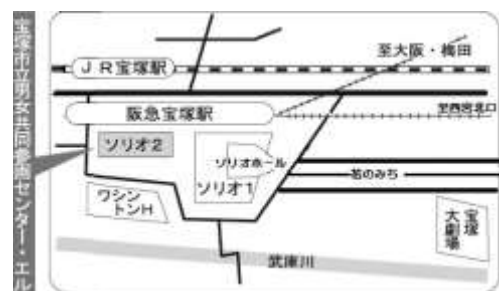
開館時間：月曜日～土曜日(9:00～21:00)

日曜日・祝日(9:00～17:00)

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424



メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp

ホームページ：https://www.takarazuka-ell.jp/